

とによって自尊感情が育つ、とも言われています。「認める」ためのもっとも簡単な方法が「ほめる」ということです。

私も担任時代、学級経営で常に心掛けていました。

しかし、この「ほめる」ということには、大きな落とし穴があると感じています。それは、何かの学習や活動の最後に、「みんなよくがんばりましたね」「みんなとっても上手でした」と慣例的に発する言葉です。このような実態の伴っていないことが多く含まれるほめ言葉の乱発は、子どもたちをだめにしてしまうのではないかと思っているのです。

ずっと昔のこと、担任をしていた子どもたちとの出来事です。

全校朝会が終わった後のことです。教室に戻った子どもたちに「今日の態度は全体的によくなかった」とことと「今月の歌の合唱でほとんど歌っていなかった」ことを注意しました。姿勢が定まらずだらっとした者や歌の時に口すらあけていない者がいたからです。すると、子どもたち数人が、「司会をされていた先生が『みんなよくがんばっていましたね、よかったよ』とほめてくれました」と言ったのです。

子どもを「ほめる」という行為は、その時の子どもの姿や行動をよいもの、すばらしいものとして認めてあげることになります。ということは、子どもたちにとって「ほめられる」ということは、教師から「それでいいんだよ」と認められることなのです。極端な話になりますが、きちんとできていない子どもたちに対して、「よかったよ」とほめることは、子どもたちに「それでいいんだよ」と言っているのと同じなのです。

ほめ言葉は、確かにその場の雰囲気をよくしたり、子どもたちの気持ちを快いものにしたりします。また、次の学習や活動への意欲も喚起させます。ですが、「みんながんばったね」「みんなよかったよ」式のおおざっぱな評価や慣例的なほめ言葉の乱発は、決してよい状態ではないのに、子どもたちに「これでいいんだ」と思わせてしまうこともあるのです。

子どもたちの姿をしっかりみとめることはむずかしいことだと思えます。ましてや集団となるとなおさらのことです。しかしながら、私たちは常に子どもたちを見取る目を鍛えて、的確な評価をできる力を身につけていく必要があります。

このような落とし穴に落ちないように気をつけたいものです。

3 メルマガ編集部からのお知らせ

◆次号の予告◆◇◆

いよいよ10月に入りました。号数も、ようやく92号に達しました。

◆山口学級活動ネットワーク メールマガジンの登録について◆◇◆

現在の購読者は280名弱となりました。これまで以上に内容を充実させていく必要を感じています。もっともっとメルマガ仲間が増えるといいなと思っています。

お知り合いの方にこのメルマガを紹介してください。登録については、山口学級活動ネットワークのホームページをご参照ください。

url: <http://www.yamakoshu.org/gakkatu-net/>

◆メールマガジン「学級づくり夢工房」◆◇◆

ネットワークでは、新たにメールマガジン「学級づくり夢工房」を始めました。これは、メールを使って学級づくりに関する情報を気軽に交換し、皆さんがお持ちの実践を共有化しようというものです。

方法は簡単！ 下記アドレスまで「メールマガジン希望」と書かれて送信してください。こちらで登録を行います。

ともに夢を追いかけてみましょう！

sugi-net@jewel.ocn.ne.jp

◆実践投稿のお願い◆◇◆

読者のみなさん、みなさんが取り組まれている情報を送ってください。学級づくりの実践を広げ、共有していきましょう。

どんな小さな事でもけっこうです。情報をお待ちしています。

=====

山口学級活動ネットワーク メールマガジン

☆ご感想・ご意見は

sugi-net@c-able.ne.jp または sugi-net@jewel.ocn.ne.jp まで

☆編集・発行 山口学級活動ネットワーク メールマガジン編集部

梶田崇晴（下関市立名池小）

津村元文（美祢市立伊佐小）

吉田哲朗（山口大学附属山口小）

西田智行（下関市立垢田小）

福永博一（萩市立椿西小）

=====

山口学級活動ネットワーク メールマガジン No.092